

## 週日の説教

金 大烈 神父 2010年8月31日(火)

《いただいた権威を使いましょう - 人の心を癒し、よい方向に導ける力 - 》

「あの人は権威がある」と言うのと「あの人は権威的だ」と言うのとでは意味が違います。「権威がある」のと「権威的である」のとでは、どこが違うのでしょうか？あまり深刻に考えずに、同じように聞いていらっしゃるのかもしれませんがね。今日読まれた福音(ルカ 4・31-37)の中には、「権威がある」という表現がありましたね。これを間違えて「権威的だ」と訳してしまうと意味は全然違ってきてしまいます。「権威的」「権威主義」というのは、『権威』の意味を『権力』と取り違えて行動している時に使います。

「権威がある」というのは、その人の言葉によって、私達が抵抗できないくらい心を動かされることを言います。人の心を動かす力を「権威がある」と言うのです。これは、歴史の中では、預言者とかイエス様の言葉に当てはまります。それは、絶対に否定的なことではありません。たとえば、お父さんやお母さんに子どもが「抵抗しないで従わなくてはならない」と思うような権威があれば、それは美しいものです。

一方、権威的な人とか権威主義的な人に対しては、この世は反感を持ちます。そして、そのような人を断ろうとする傾向があります。また、権威的な人のほうでも、自分達の中にある権威主義的なところを隠そうとします。今の時代の政治家達は全てそうです。権力を求めはしても、権威的な姿はできるだけ隠そうとしています。そして、人々はよくそれにだまされます。形は違っても、国民を治める人たちが、権力を持つ立場を保とうとするのは、いつの時代でも同じです。

しかし、今日の福音で、人々がイエス様の言葉に「あの方の言葉には権威がある。」と驚いたのは、その言葉に自分達の心が動かされたからです。私達も、権威主義的な人ではなくて権威のある人に出会ったら、やはり動かされます。「ああ、そうだ。そういうことだ。私も振り返ってみななければならない。」という反省が自然にできると思います。

では、皆様の中には『権威』はあるのでしょうか。ご自分のことを考えてみてください。『権威』は必要です。皆様の中にも必ず『権威』はあります。その『権威』とは、どういうもののでしょうか。私は「人の心を動かす力」と言いましたが、もとの意味は何でしょうか。辞書に書いてある意味を言っているわけではありません。はっきり申し上げますが、皆様は洗礼を受けたときに権威をいただきました。それは、『人の心を癒し、人の心を動かし、人の心をよい方向に導くことのできる力』です。ある意味では、『権威』は聖霊の働きなのです。

今日の福音の第一朗読(一コリント 2・10b-16)には、結構霊的な話が書かれています。最初のほうに「人の内にある霊以外に、いったいだれが、人のことを知るでしょうか。」と書いてあり、最後には、「わたしたちはキリストの思いを抱いています。」と書いてあります。結構意味深い内容です。

皆様は既にキリストの思いが何であるか分かっています。洗礼を受けたときに、自分がどの方向に歩まなければならないか全部分かったはずですが、もしその意識が皆様の身に付けば、皆様は自然に権威がある人と言われるようになります。しかし、自分がいただいた恵みに対して自信がないから、人に手を伸ばすこともできないのでしょう。自信がないのでしょう。「この道は確かによい道だ」という確信に満たされても、それを隣の人々に見せなければ、皆様に与えられている権威を殺していることになります。

皆様、確信をお持ちください。時々話していることですが、皆様の一言で救われる人がいるかもしれないのです。これは、ただ通り過ぎてよい話ではありません。もし皆様が持っている賜物に自信を持つならば、そして自信がなくても神様に委ねる心を持つならば、「神様を信じて、おっしゃった通りにします」という行動が自然にできるはずですが、そういうことが苦手だとか、性格に合わないというのは、言いわけに過ぎません。

皆様、よく考えてみましょう。イエス様の言葉には権威があり、汚れた霊が追い出されます。皆様も汚れた霊に取りつかれている人の痛みを癒せます。癒せるかどうか疑ってばかりいるからできないのです。そういう意味でイエス様は、からし種ほどの小さな信仰があれば、山を動かすこともできる、とおっしゃったのです。その言葉を信じてください。

さあ、もう一つ別の話をします。時々がっかりさせられる話ですが、一週間前か二週間前にラザロの話をしましたね。物乞いをしていたラザロは天国に行き、金持ちは陰府よみに落ちます。そして金持ちはアブラハムに、「ラザロを私の弟達のところに行かせてください。」と頼みます。するとアブラハムは、「預言者を送ったけれど、お前達は聞かなかつた。だから死んだ者が生き返っても信じないだろう。」と言います。今日の福音では、たくさんの人々が、イエス様の言葉に「この人の言葉には権威がある。汚れた霊さえ追い出される。」と言いました。そして「イエス様のうわさは、辺り一帯に広まった。」と書いてあります。つまり、たくさんの人々がイエス様の存在感を感じていたのです。しかし人間的な秤で見ると、イエスという人物は失敗者です。自分の言葉によって心を動かされた全ての人から裏切られたのです。そういう意味で、「狭い門を選びなさい」という言葉がよく出てくるのだと思います。そのくらい、私たちがみ国に入るのは、難しいのです。み言葉を知っていて、み言葉で武装していても、いつも倒れて転んでしまうのが私たちの弱さです。そのような状況の中で、聖人と呼ばれる人々は、本当に忠実にみ言葉に従った人々だと思います。

私たちの中には、み言葉の意味が分からない人は1人もいないと思います。しかし、「ああ、素晴らしい」と言われるような生き方をしていると、自信を持って言える人は少ないでしょう。それは、逆の意味では希望があることです。み国に入るのが難しいのは誰でも同じです。みんな同じ条件です。だから、それを乗り越える希望を私たちみんなが平等に持てるのだと思います。

表面的にどんな生き方をするかはあまり重要なことではありません。霊で動く中身が一番大切なのです。

ありがとうございました。